

朋友

For You

沖縄セントラル病院広報誌

2014 年新年号 発行 vol. 25



医療法人寿仁会

沖縄セントラル病院

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀 1-26-6 TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519

URL <http://www.jyujinkai.or.jp/> E-Mail centh1@nirai.ne.jp

ユートピア沖縄

〒902-0076 沖縄県那覇市寄宮 2-1-18 TEL.098-854-5551 FAX.098-854-9062

URL <http://www.utopia.jyujinkai.or.jp/>

目 次

年頭所感	理事長 大仲良一	2
年頭所感	クリニック絆院長 松本光史	4
年頭所感	事務長 新垣安雄	4
年頭所感	事務次長 國吉隆之	5
年頭所感	総務部長 宮城孝光	6
年頭所感	財務部長 仲松幸治	7
年頭所感	看護師長 喜久川明日香	8
年頭所感	薬剤科主任 近藤菜穂子	9
AMD A活動報告		10
新年持ちつき大会 辞令交付 敬老会スナップ		15
高気圧酸素療法実績 (HBOT)		15
新人紹介		16
ユートピアトピック		17

AMD A 沖縄活動報告



非営利活動法人アムダ

AMD A

沖縄

インターナショナルスクールの皆様からフィリピン台風被災者への支援物資をいただきました。

AMD A 沖縄 会員募集 救える命があればどこまでも！

AMD A 沖縄の活動を応援して下さる会員を募集しています。

入会希望の方は下記までご連絡下さい。
(医師・一般・法人・学生等)

那覇市与儀1丁目26番6号(沖縄セントラル病院内)
TEL098-854-5511 (担当：津波古 伸子)

AMD A の活動へのご支援のお願い

AMD A では今度も平和を妨げる戦争、災害、そして貧困に苦しめられている人々への保護医療支援を行っていきます。

今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。
ご寄付の場合は下記の口座までお願いします。

沖縄銀行 与儀支店 普通預金 1295760
アムダ沖縄代表 大仲良一 (おおなかよしいち)

年 頭 所 感



医療法人寿仁会
沖縄セントラル病院
ユートピア沖縄
理事長 大仲良一

新年明けましておめでとうございます

今年のテーマは ‘お も い や り、

新年の計画を立て、皆さん堅い決意のもとスタートされた事と思います。

昨年は政治・経済をはじめとして、すべてグローバル化している中で、我が国も決して安閑としておれない厳しい一年でした。

一方、私共病院創立以来すべて順風満帆と迄は言えないまでも、職員の力強い支えによりまして、風波を乗り越えてきましたが、昨今程苦渋に満ちた年はかつてありませんでした。

苦い思いを新年に語ることは誠に忍び難い事ですが、二の轍を踏まない為にも敢えて記録に残したいと思います。

その大きな要因は、目まぐるしく変化する社会情勢が足枷になったものではなく、発展を阻害した元凶は寧ろ病院内部に隠然と潜んでいたと言っても決して過言ではありません。

経営者の立場から逸早く先手を打てず遅きに失したことは、不徳のいたすところであります。

事業の経営者には決断と実行力が欠かせません。人心は測り知れないものであるが、時には相手に反省と改悛の機会を与え、その経過を見て機が熟するのを気長に待ち受けるタイミングと最後の決断の時が必要です。

然る後、決断の暁には万難を排して新たな事に当たる事が、私共経営者には求められるものです。

去る者は追わず、来る者は拒まず、志を共にする職員の一糸乱れないオール揃いを心から期待するものです。

目の前の現象にのみとらわれず、一年後、三年後、否十年先のビジョンについて緻密な戦略と、今出来る改善を同時に進める必要があります。

本年度は先づ経営体制の刷新を第一にすすめたい。

- (1) 時代の趨勢に応じた新陳代謝で病院の活性化を計る。
- (2) 古参の功労者に対する処遇。
- (3) 新たな幹部、管理職の育成（教育・研修の徹底）。
- (4) 医局をはじめ各部署の活動の検証と再評価。
- (5) チーム医療とは何ぞや（院内における再構築）。

医師が中心に諸々の指示がなければ周囲が動かないという体質ではなく、従来医師が行っていた検査のアレンジを看護師に委ねることで裁量を高め、また医療法に則った診療上の指導、レセプト請求業務等について医事課職員からのアドバイスを有効に活用したり各セクション間で円滑に協力体制が構築出来るようにする。

- (6) 地域連携とは何ぞや（病々、病診、地域との密接な関わり方）

従来、当院は医師を中心とした地域連携が大きく遅れていた。幸いにして相談員、MSWによる連携、それに呼応した看護課、リハビリ職員の協力により医療介護病棟、回復期病棟が運営されてきましたが、更なる地域との積極的な連携の必要性が求められます。地域との密な関わりは単に医療、看護、介護にとどまらず、予防医学即ち健康管理センターやメディカルフィットネス事業にも大いに波及するものがあります。

(7) 人材開発部の設立（プラス思考での取組み）

団塊の世代が後期高齢者を迎える 2025 年まで残すところ 12 年。この先 12 年を見据えて次世代を担う人材（医師、看護師、コメディカルスタッフ、事務職）を選定し小グループで 2025 年に向けたビジョンを作成する。

このグループで病院及びユートピア運営の為の核づくりを推進する。

(8) 沖縄セントラル病院とユートピア沖縄、クリニック絆、デイサービス、グループホーム、地域連携室が医療法人寿仁会の傘下にある事を全職員が深く認識し、緊密な連帯感をもって発展する事を期待する。

P D C (S)、A の cycle で推進

(中国の張思叔の座右の銘)

事を成すには必ず始めを謀れ

言を出すには必ず行いを顧みよ

物事を始める場合には必ず事前にそのことをよく調査し、どのように進めていくかの計画を立てなければならない。

また、何事かを口に出して言う時には、それが実行できるかどうかを考えて言行に不一致がないようにしなければならない。

こうすれば事、優に成る

すべての職員とご家族の皆様の幸せの為に、病める人々の一日も早い快癒を願いつつ老骨に鞭打ちながら、皆様の一糸乱れぬオール揃いを期待してしっかり舵を取って参ります。全職員に幸多かれと祈っています。



年初め集合写真



クリニック絆 院長 松本光史

あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり新たに目標を定められた方も多いのではないのでしょうか？私自身、今年目標として「効率化」を揚げたいと思います。どの業界においても成長し、生き残っていく為に「効率化」は必須条件です。医療は複数の従事者が連携して行われる業務であり、その「効率化」が安全、安心、サービスの向上に寄与するものと考えています。「効率化」を進めるに当たっては業務に携わる者の意思統一や情報の共有化が不可欠です。意思統一はその医療機関の理念を理解し患者さまやそのご家族に安全、安心を提供しようとする姿勢で、業務をより円滑、安全に行う為の重要なポイントが情報の共有化です。刻々と変わる患者さまの情報を皆が共有し、問題意識を持って業務に携わることで「効率化」が可能となるといった構図です。まずは現状で一番足りないと思われる情報の共有化について簡単なシステム化を図っていきたいと考えています。

医療は一人で行うものではなく、チームとして行うものです。年頭にあたり一人ひとりが医療人としての原点に立ち返り、その責務について想いを巡らせご協力を賜りたいと思います。



事務長 新垣安雄

2014 年（平成 26 年）午（馬） 年

明けましておめでとうございます。

昨年は、沖縄セントラル病院発足以来の一大転機とでも申しましょうか、大仲理事長の強い意向において、より良質の医療、信頼される医療機関のあるべき姿を創立 40 周年の展望の一つに揚げられ、その具現化の為にも既存の病院体質の変革、その為には医局刷新は最早不可避として断じられ、現実的に医局の刷新に取り掛かって来られました。このことは医局員は元より全ての職員にとって、少なからず驚きと戸惑いと不安は隠せなかったのではと思います。

物事を立て直す為の思い切った処置には、時として多くの課題と困難に遭遇するもので、それらの解消と克服に各々が持てる職責において日々邁進していくことが求められます。その状況下、沖縄セントラル病院は新たな年、平成 26 年を迎える事になりました。

今年は午（馬）年。人間万事塞翁が馬のたとえにて「幸不幸は予測しがたく、幸が不幸に、不幸が幸にいつ転じるかわからないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではない」との賢人のいわれにありますように、不透明な先に一喜一憂することなく、病院が着実な前進をしていけます事を願うとともに、職員皆様方のご多幸を願い、新年のご挨拶といたします。（平成 26 年 1 月吉日）



事務次長 國吉隆之

平成 26 年、明けましておめでとうございます。

皆様、どのようなお正月をお過ごしになりましたか？

各々、素晴らしい1年の目標をお立てになったかと存じます。

私自身におきましては昨年12月に当「沖縄セントラル病院」へ入社し、まさに光陰流水な年末年始の感じでありました。

古代中国で発せられた自然哲学思想の「五行」におきまして、今年の干支「うま年」は「火」の年にあたるそうです。この「五行」でいう「火」は、全てを燃やす躍動を表し、光り輝く炎がもととなっている火の様な灼熱な性質をもっています。

その火の色を表す色は「赤・オレンジ」です。当院のロゴマークに使用されている色が「赤」と「オレンジ」です。正に今年は当院の色です。

うま年、赤色から連想したのが「赤兎馬」です。こちらも古代中国歴史の三国志に登場する名馬の赤兎馬です。元は武将 - 呂布の飼い馬でありましたが、後年、英雄 - 関羽雲長の愛馬となり、一日に千里を駆けることができると記されています。

さて、医療界においては診療報酬改定の年になります。次期改定では「診療報酬据え置き」「来年度改定ゼロまたは微減」（日本経済新聞 H23/12/18 より）と大きな見出しが出ておりました。間違いなく厳しい改定になることでしょう。

医療経営に大きな影響が及ぶこととなりますでしょうが、この荒波をかわし、さらなる発展を遂げる。我々沖縄セントラル病院は、今年は駆け抜ける年になる、と信じております。

理事長の掲げるビジョンに向かい、職員全員がベクトルを一致させ、赤兎馬のごとく、この2014年を駆け抜けていきたい、駆け抜けるという意気込みをもって自身、奮闘したい所存でございます。

職員みなさまのご協力、一致団結した心があってこそ成功するものです。皆で頑張ってみましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

平成 26 年 1 月



新年、あけましておめでとうございます。

今年の干支は“^{うまどし}午年”です。

“馬”で表現する一つとして、沖縄の方言で『馬の^は早い^{ちち}や月の^は早い』と表現し、月日の経つのが早い表現に使われます。では共通語で“馬”を表現する言葉として『駿速』、『競馬』等があります。それぞれ人が走るのが早い表現と馬の早さを競う場合に使う言葉です。それらは、いずれも早さ、つまり Speed の表現、乃至は Speed を競う表現として使われています。

現在はコンピューターの時代、情報は3秒で地球の裏まで行ってしまいます。

また、グローバル化した社会の中で企業が生き残る為には物事はスピーディーに進捗なくては、生存競争に負けてしまう事になります。

翻って、当院は昨年（平成25年）は“質”の改善、“経営・運営”の改善をすべく日本病院医療機能評価機構の Ver・6 の認定を受けました。

ところが、経営面と運営面の両面で、かつて経験もしたことの無い悪い状況に陥ってしまいました。このことは人材確保や組織の面で上手く機能していなかったと思われます。

今年は、こういった事を刷新する為にも、微温湯には浸からず、目標、計画を立て、実行性を発揮し、前進する気持ちを持ち、理事長が年頭の挨拶で述べておられました ①グローバル化への対応 ②状況の悪かった二の轍を踏まない ③時代の趨勢にマッチした経営・運営 ④管理職の養成 ⑤医局の検証 ⑥医事課へのアドバイス ⑦ユートピア沖縄への寿仁会としての全職員の認識 ⑧チーム医療 ⑨人材開発設置など、スピーディーに取り組み、改善をする必要があります。

病院経営改善で最優先するのは“医師の整備”で収益確保はすべて医師から発生するからです。このような見地からしても“医師の検証”をはじめ、上記の①～⑨迄を達成するには、職員が一致団結してポジティブに P・D・C (S)・A を実行し、スピーディーに物事を解決し、結果を出さなければなりません。

職員の皆さん！ 今年こそは、経営面も好転し、さらに当院の“医療の質”向上、“医療安全を”祈願し、ますます病院が邁進し、輝かしい一年になるよう頑張りましょう。

最後に、職員一同のさらなる健康増進を祈念し、年頭の挨拶と致します。



財務部長 仲松幸治

皆様あけまして、おめでとうございます。

私は財務部の仲松幸治、と申します。事務方なので、外来や病棟の方々と接する機会が少ないですが、今後とも宜しくお願い致します。

私は畑違いの前職より昨年、当院へ転職させて頂きました。その為、中々物事がすぐに理解できず、七転び八起きを繰り返しております。(笑)

その中で私が考えている事、また今後の抱負を述べさせて頂きたいと思います。

私の思考、行動の柱になっている事が『より良く』です。例えば、昨日よりは今日、今日よりは明日と、何か一つでも前に進む、改善して行く事を常に行いたいと考えています。当然、今私が在籍しているこの沖縄セントラル病院も常に『より良く』して行きたいと考えています。今が良い悪いという話ではありません。ただ少なからず時間というものを軸に考えると、早い段階で『より良く』する行動を起こして行くべきだと思います。それは今年消費税アップという世の中の流れ、また診療報酬改定という医業を取巻く環境が変わって行くからです。環境が変わるという事は、我々もそこに適応する為『変化』しなければならない、という事になります。『変化』するには、今までと違う思考や行動が伴わなければなりません。それにはまず、ビジョンを掲げることが必要不可欠です。そしてビジョンを達成するために、この大きな組織の各部署、各個人が認識を高め、情報の共有、タテヨコのコミュニケーションの再構築、ある程度概案が固まれば即行動する、スピードを兼ね備えた実行力が必要です。得てしてすぐ即行動するには、かなりの勇気がいります。失敗をしたらどうしようと、やはり躊躇するものです。しかし失敗を恐れているだけでは、何も始まりません。私が今考えている行動も失敗するかもしれません、いや、失敗するはずです。それでも、私は行動し前進するつもりです。失敗する事で一時的には後退するかもしれませんが、行動する事によって結果前進する事になるはずです。それは失敗を踏まえる事で改善を行い、目標に向かって前進して行くで『より良く』なると信じているからです。

私はこの厳しくなる環境の中で、沖縄セントラル病院を『より良く』したいと強く考えています。その為には私ひとりの考えや、行動では何も変わりません。たかが人間一人です。しかしその人間が一人から二人、二人から三人と、増えてベクトルを一つにすれば大きな力になります。そこでみなさんへのお願いです。みなさんのいろんな力、発想力、コミュニケーション能力や行動力などを貸して下さい。ともに行動し、実行しましょう。

今年は『勝負の年』です。ぜひ、お互い力を出し合いながら全力で進み、この病院を周りの環境に適応できるよう『より良く』して行きましょう。ご協力お願い致します。



看護師長 喜久川明日香

2014 年、明けましておめでとうございます。

1 年の始まりに、皆様はどのような誓いを立てられましたか？

きっと、夢や希望に満ちた、素晴らしいものであることでしょう。

念頭に当たり、看護師長としての所感を 2 点、述べさせていただきます。

① 組織を愛すること

「組織を愛する」とは、組織理念・目的を共有し、目標に向かい活動する事、専門職業人として 1 人 1 人が自律しながら互いに思い合うことだと考えます。

その活動の利益は、質の高い医療、看護、介護として患者様・ご家族様・利用者様へ還元され、また職員と組織を高めてくれることでしょう。

質の高い医療・看護・介護とは、科学的（医学的）根拠に基づいたサービスであり、相手を尊重した患者様・利用者様主体のサービスに他なりません。そのために、看護部におきましては目標管理・クリニカルラダーの徹底を図り、寿仁会理念をすべての職員と共有していきたいと思えます。

これまでも、そしてこれからも、医療界にとって大変な時期を迎えております。それゆえ各病院にとってその存在意義を問われる時となりました。

2025 年問題、人口減少に入りながら高齢者は増え続ける、という奇妙な現象を突きつけられる日本の状況は極めて厳しいと言わざるをえません。しかしながら、国民の生命・健康を守る担い手である病院の経営は、診療報酬改定の度に圧迫されているのが現状です。だからこそ、痛みは半分に、喜びは何倍にもしていける、風土作りをしていきたいのです。

たゆまぬ努力をもって、提供するサービスの質向上を図ると同時に、組織の団結を強化していきましょう。

② 職員を愛すること

「職員を愛する」とは、1 人 1 人を「組織の戦力」としてのみならず、「個」としてもフォーカスを当て、人間として、専門職として成長するための教育支援と、生き生き働ける環境を提供する事だと考えます

そのために、先述したラダーの徹底のほか、院内・外研修参加と内容の強化、沖縄県看護協会への入会の啓蒙を更に推進していきたいと思っています。当院の看護協会入会者はごく少数、と非常に残念な限りであります。入会者の特典として協会主催の研修が半額になることは皆さんご存じでしょう。しかし、最大のメリットは、年間わずか 2650 円！で「看護職賠償責任保険制度」に加入できることなのです。

私達医療者の業務は、医事紛争に繋がりがねない、危険と隣り合わせの業務です。対人賠償、人格権障害などの医事紛争から職員を守る、それも「職員を愛すること」だと信じ入会を啓蒙していきます。

いきいきと働ける環境とは、スタッフの適性に合った役割分担と、権限委譲と考えます。主体的に考え、成果に結びつく過程に満足感を得る、管理者はフォローし応援する、小さな成功体験が積み

重なることで、多くのチャレンジができる、そんな関係性が、人も組織も育ててくれるのだと思います。そのために、能力や経験値を高める適切な人員配置を行っていきます。他、離職率低下に向けて、各所属長との連携により労働環境を把握し、ナースの定着にむけて、看護方式や夜勤体制、勤務シフトなど、現場の職員が働きやすく、患者様にとっても良いことを検討、提案し当院のワークライフバランスの有り方を構築していきたいと考えています。

最後に、皆様と沖縄セントラル病院にとりまして、実り多き 1 年でありますよう祈念致します。今



薬剤科主任 近藤 菜穂子

おもいやり

明けておめでとうございます。

早いもので、沖縄に転居し、あっという間に2年が過ぎようとしています。

私は縁あって2年前、暖かい沖縄に引っ越してきました。沖縄へ移住を考えた理由は、夫が「冬場、寒さの厳しい関東（千葉）より暖かい沖縄で療養したい。」と言いだしたことがきっかけでした。これまで、観光で沖縄へ二度訪れました。その時点で沖縄に親戚・知人は誰一人いなかったもので、移住など考えてみたこともありませんでした。ところが現在、那覇に住み、まさか沖縄セントラル病院で働いていようとは、まるで夢のようです。人生、先の事は全く予想できないものですね。沖縄の言葉のニュアンスが分からない私にとって、当初、大変戸惑いがありました。風習・しきたりについては、なおさら、知らないことばかりで、驚きの連続でした。

当院に入職し、間もなく「感染制御チーム」の一員となり、院内感染に取り組みました。去年は薬局主任も任され、私なりに頑張ってきたつもりです。これまでやってこれたのは、上司や職員の皆さんの助言、協力があったことです。

私は「情けは人の為ならず」という言葉が好きです。この言葉の意味を「人に情けをかけるのは、その人のためにならない。」と解するのは間違いで、正しくは「情けを人にかけておけば、めぐり巡って自分に良い報いが来る。」というのが本来の意味です。

職務をこなす上で大切なもののひとつに、円滑な人間関係があると思います。つまり、相手の立場、考え方を少しでも理解しようと努めることです。自分が発した何気ない言葉遣いや態度が、知らず知らずのうちに相手の心を深く傷つけ、気まずい雰囲気を作り、信頼関係を損なうことになります。人間関係が希薄になるにつれ、自分さえ良ければよいという、自己中心的な考えの人が多くなり、様々な社会問題を引き起こしています。人間は性別や容姿などの外見、性格、物の考え方、思想などに違いがあって当然です。このような違いがあることを認めた上で、仕事をしなければなりません。つまり、各自がお互いに人格を尊重し合い、同じ目標に向かっていくことが求められます。それには、互いに「思いやる心」が大切です。

去年の流行語「おもてなし」にあやかり、今年の私のスローガンとして、「お・も・い・や・り」を挙げたいと思います。一人でも多くの方が、私の考えに賛同して頂ければ嬉しいです。

リマ市貧困地域における青少年のH I V / A I D S 予防事業

沖縄セントラル病院
リハビリテーション所属
ペルー国内科医師
渡久地ルイス



対象国：ペルー共和国

プロジェクト名：リマ市貧困地域における青少年の HIV/AIDS 予防事業

実施機関／カウンターパート：AMDA 沖縄／AMDA ペルー

実施期間：2011 年 8 月～2014 年 1 月

実施地：ペルー国リマ市カラバイヨ地区

対象者：青少年（直接的受益者：5,000 人、間接的受益者：20,000 人）

ペルー国における 2011 年の HIV/エイズ感染者の数は 72,461 人で、1983 年から 2011 年までのエイズ感染者は、ペルー国全人口の 34.1%が集中するリマ・カヤオの両市に集中する（71%）。

GAFT (The Global Fund to fight AIDS, Tuberculosis and Malaria) プロジェクトの報告によると、ペルー国における 12 歳～17 歳の年齢層の 40%以上は HIV/エイズに関する基本的知識がないとされている。そのうち、12 歳～14 歳ではその数は 50%に上る。この数字は全国を対象としたデータであるため、プロジェクト対象地区のカラバイヨのような貧困地区においては、その数字は更に高いと考えられる。

カラバイヨには、保健所や保健医療分野の NGO から構成されるカラバイジョ地区保健委員会（以下、COSACA）があり、同委員会が中心となり学校での健康保健教育を導入・実践してきたが、その活動は不定期に行われ、限定的であるのが現状である。

【ペルー国政策との合致】

ペルー独立 200 周年にあたる 2021 年に向けて各分野の長期計画が定められた「国家開発戦略計画（プランペルー）」においては、HIV/エイズ問題について、保健衛生分野の視点からだけでなく、セクターを超えた横断的なアプローチを図っていくとしている。また、同国保健省が策定した「セクター戦略計画(2012-2016)」において、貧困層・最貧困層の感染症の低減・制御を図ることが重要項目の一つに掲げられ、その具体的な指標として以下の 4 つがあげられている。

- ① 住民が HIV/エイズについて理解し、HIV/エイズ予防感染につながる行動をとる（年間 5%増）
- ② 性行動が活発な世代の性感染症罹病率が減少する。
- ③ HIV 母子感染が 2%下がる。
- ④ 母子感染による新生児の先天性梅毒が 0.5%以下に下がる。

対象地区カラバイヨはリマ市の北部に位置する最も貧しい居住地区の一つで、住民 230,500人の大部分が職・生活の安定を求め、地方から移り住んで来た人たちである。カラバイヨ地区には、「プエブロス・ホベネス」と呼ばれる非計画居住地区が点在し、住民は乾燥した急斜面に建てられた小屋の中で電気や水道設備のない貧しい生活を余儀なくされている。

また、現地のラ・フロール保健所によると、同地区では12～13歳を含む若年層妊娠が多く、保健所利用者妊婦の10%前後を占めていると言う報告がある。性交開始の低年齢化とそれに伴う危険性の増加を示している中で、HIV感染に対し脆弱な立場にある女性や青少年に対するHIV/エイズ予防教育の必要性が求められている。

プロジェクトを通じ、計 52 人の若者が指導者育成プログラムを修了し、内 24 人は現在も活動を続けている。プログラム開始前に実施した理解度テストの平均結果は 15 点（20 点満点中）だったが、プログラム後の評価テストにおいては、平均点が 18 に上がった。また、52 人中 38 人が最終テストで 16 点以上を取得した。

指導者育成プログラム受講者数（実績）

状態	性別	合計
活動中	女性	13
	男性	11
活動中合計		24
活動休止	女性	12
	男性	9
活動休止合計		21
活動／休止（不定期）	女性	4
	男性	3
不定期活動合計		7
指導者育成プログラム受講者数（合計）		52

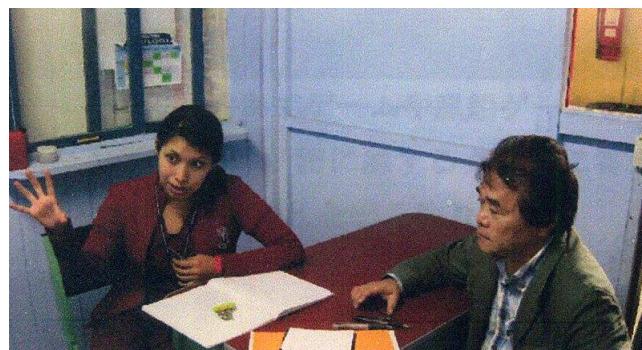
指導者育成プログラム受講者の評価テスト結果比較

性別	評価点	研修前	研修後
女性	10 ～ 15	11	0
	16 ～ 20	18	19
	評価なし	0	10
男性	10 ～ 15	12	0
	16 ～ 20	11	19
	評価なし	0	4
合計		52	52

育成された指導者リーダーたちは、12 の学校（チョカス、シロアレグリア、コパカバナ、デモクラシア、イリベルタ、ホセマルティ、ラフロール、ロスアンヘレス、ルシアナ、ラウルPバルネチェア、サントイサベル、サンティアゴAデマヨロ、2025）でHIV/エイズ予防ワークショップを実施し、計 4,152 人が受講した。使用した教材は、指導者リーダー育成プログラム用に作成したものをベースに、学校生徒向けプログラムにおいて更新を行い活用した。また、彼らの理解度を図るために、ワークショップ開始時に HIV/エイズ予防知識・行動に関する事前アンケートをとり、初期データを収集し、ワークショップ終了時に実施した評価結果テストと比較し、理解度の変容を図った。

学年別受講者数（男女別）

学年	1	2	3	4	5	5prm	6prim	合計
男	553	456	422	368	367	39	36	2241
女	505	423	347	273	304	29	30	1911
	1058	879	769	641	671	68	66	4152



保健所担当者とミーティングを重ね、地域の青少年たちへ予防の知識を効果的に広めるための情報共有を行います。

プロジェクト初年度には、AMDA ペルースタッフ（ベアトリス氏）が沖縄で研修を受ける機会に恵まれ、戦後沖縄が経てきた公衆衛生対策等について学んだ。これらの経験に加え、清潔・几帳面という日本の文化的な要素をプロジェクトの活動にも盛り込むことができた。また、実施団体である AMDA 沖縄が、ペルー国内の関係機関とうまく連携を図ったことがプロジェクト運営において大きく貢献した。さらに、沖縄県と JICA の連携協定締結を踏まえ、プロジェクト最終年（2013）には、沖縄県とも連携し、沖縄の学生によるプロジェクト視察を実現できたのは、双方の若者の異文化理解や人材育成にも繋がる大きな可能性を生むきっかけとなった。

- ・本プロジェクトでは、沖縄側、ペルー側共に沖縄県系人が中心的な役割としてプロジェクトに携わっており、在沖縄「沖縄ペルー協会」や在ペルー「ペルー沖縄県人会（AOP）」、ペルー日系人協会（APJ）といった日系団体からも協力を得ながら、交流や情報交換を通じ、双方の関係強化を図ることができた。その一環として実現した、沖縄の学生によるプロジェクト視察の受け入れは、異文化理解だけでなく、ペルーが抱える課題を直接肌で感じてもらうことができ、双方にとって意義が大きかったと言える。

- ・青少年リーダーグループからなる JOVE は、専門家や地域の保健関係者からの指導の下、ソーシャルネットワークサービス（Facebook）を通じ、「地域の青少年に対し、HIV・性感染症・若年層妊娠等の問題に関する情報を提供している。

- ・HIV/エイズ・性感染症・性交渉・若年層妊娠等といったテーマは、デリケートな問題であるため、地域住民（若者）の文化・慣習・国民性を理解する事がプロジェクト運営・実施面においても重要である。

- ・学校や地域での活動をスムーズに展開するためには、関係当局（教育機関、保健機関、役所等地元ネットワーク）との良い関係を築く事が重要である。

本プロジェクトへの投入は、5,000 人の直接的受益者を生み、更に当事業への参加がその家族・友人・地域との会話のきっかけとなり、最終受益者数は 20,000 人に増える効果を生み出していると予想される。

ProyectoManager: 渡久地ルイス。



HIV/エイズ予防教育ワークショップを受講した生徒たちがさらに育成プログラムを受講し、サポーターとして地域の保健イベントで活躍しています。



中学校でのワークショップにて渡久地プロジェクトマネージャーが講義を行いました。

2011年8月に始まった本プロジェクトは、JICA 沖縄（国際協力機構沖縄国際センター）の草の根技術協力事業として、AMD A 沖縄がカウンターパートである AMD A ペルーと協力して行ってきました。ペルー共和国は近年堅調な経済成長に伴って貧困率が減少しつつあるものの、依然として貧富の差は大きく、本プロジェクト実施地区であるリマ市カラバイヨ地区には、地方から移住してきた貧困層が多く居住しています。移住者は年々増加し、周囲の乾燥した砂と岩の山々にも簡素な造りの家が立ち並び、現在同地区の人口は22万人に達しています。こうした環境の中、保健などの行政サービスは行き届いておらず、HIVや結核などの感染症が住民の健康上の課題となっています。ペルー国における2011年のHIV/エイズ感染者の数は72,461人で、そのうちの71%がリマ首都圏に集中しています。15歳から34歳までの若者のHIV感染者数は11,400～20,200人と推定されていますが、12歳～17歳の年齢層の40%以上はHIV/エイズに関する知識がないとされ、そのうち12歳～14歳では50%に上ります。このように、若年層へのHIV/エイズ予防教育の充はペルー国の保健政策としても喫緊の課題となっており、継続的に予防教育を実施できる本事業には、ペルー国保健省、教育機関、役所、地区保健委員会などの積極的な協力を得ることができました。

さらに、沖縄ペルー協会やペルー沖縄県人会、ペルー日系人協会からご寄付がよせられ、さらに広報的な役割も担っていただくなど、県系人、日系人との絆を深めることができ、沖縄発のプロジェクトとして意義深いものとなりました。

事業の具体的な実施方法は、まず対象地域の大学生を青少年リーダーとして研修を通して育成し、そのリーダーたちが学校やコミュニティの10代の青少年に対して予防教育活動を行います。地域の中学校へ青少年リーダーたちが出向き、10代にも理解しやすい教材を導入しワークショップを行います。リーダーたちは定期的に研修を受け研鑽を積み、自発的にミーティングを持ち運営方法を検討するなど、積極的に取り組んできました。その姿勢は10代の学校生徒たちを動かし、生徒たちはさらに学ぶ意欲を高め、サポーターとなりピア教育に取り組むようになりました。また、保健イベントでは予防啓発のリーフットを配布し、自作のゲームや寸劇を活用しながらHIV/エイズ予防の知識普及に取り組んでいます。これまでHIV/エイズ予防や10代の性とリプロダクティブヘルスに関して継続的な予防教育がなされなかった同地区に、現在ではその知識は確実に根付いています。

「10代の妊娠防止フェア」



地域の保健イベントでAMD Aブースを設け、HIV/AIDS予防や10代の性とリプロダクティブヘルスについてパネルを用いてわかりやすく説明し、知識普及の活動を行っています。



17日間にわたるペルーでの活動を終え帰国した渡久地プロジェクトマネージャー（写真右から2番目）。お疲れ様でした。

新春もちつき大会



年明けの1月4日
ユートピア沖縄にて
恒例の餅つき大会を行
いました。
スタッフによる演舞も
あり、入居者と共に楽し
みました。



辞令交付



事務次長 国吉隆之



財務管財部長 仲松 幸治

敬老会 スナッフショット

昨年10月12日毎年
恒例の敬老会が行われ
ました。歌あり踊りあ
りと皆様楽しまれたご
様子でした！



高気圧酸素療法室からの報告(2013 年 12 月 30 日 高気圧酸素治療室主任 新里善一)

	2008 年～2013 年(12 月)の疾患別・高気圧健診のチャンバー利用者数(人)						
大分類	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	6 年合計
脳・脊髄疾患	106	91	12	15	22	73	319
末梢神経・血管疾患	254	386	211	119	91	106	1167
腎・尿路疾患	0	10	24	59	30	54	177
減圧障害(DCI)	24	64	46	33	12	29	208
骨・軟部組織損傷(疾患)	27	11	54	19	4	73	188
高気圧従事者検診	281	294	305	279	297	183	1639
計年単	692	856	652	524	456	518	3698

*脳脊髄疾患

脳血管障害など

*末梢神経・血管疾患

突発性難聴/顔面麻痺など

*腎・尿路疾患

放射線治療後の出血性膀胱炎など

*減圧症

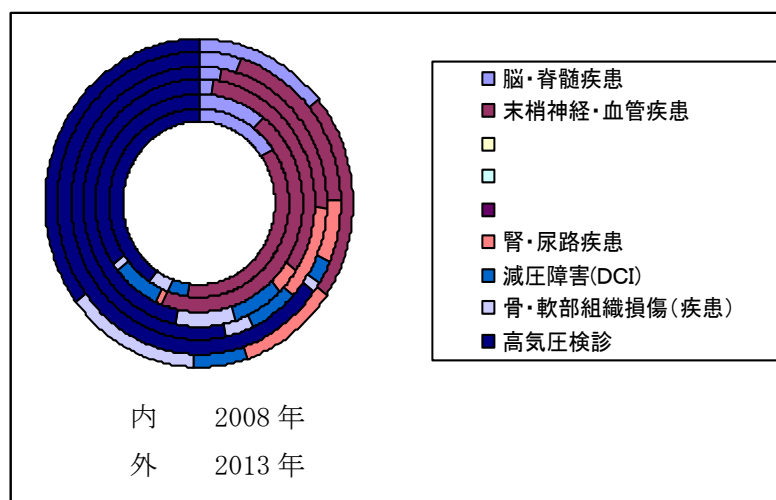
減圧症 1 型等

*骨・軟部組織疾患

難治性皮膚潰瘍等

*高気圧従事者健診

消防隊員・レジャーダイバー等



2013 ユートピア沖縄年間トピックス

一月

今年は波ノ上宮へ初詣に出かけ、利用者の皆様と写真を撮り参拝をしました。
波ノ上宮の神主様より、施設内での飲食について許可をいただき、窓から眺める海景色を見ながら「おやつタイム」を楽しんでいました。



二月

2月8日（木）沖縄国際婦人クラブメンバー14名が来所。日頃は、国際親善の機会を与え、地域社会への知識、文化ならびに福祉に対する関心を深めることを目的に県内各所で活動しており、当日は、デイサービス利用者と一緒に体操や、かるたゲーム（英語は和訳に、日本語は英訳し）に参加。また、ビンプ保育園児も交え歌やダンス、手作りお菓子のプレゼント交換に大人も子供も大喜びでした。
日頃、接することが少ない国際婦人クラブの方々とは触れ合うことができ、大変有意義な体験を得ることが出来ました。



三
月

デイサービスでは、2ヶ月に1回ご利用様誕生会を催ししています。

その日は、附設するビンプ保育園の子ども達も参加し、歌やリズム体操、ゲーム等で楽しみました。

園児から利用者様へプレゼントを贈呈する場面では、嬉しくて涙ぐむ方や楽しくて会が終わるまで手拍子されている方もいて、利用者の皆様は大変喜んでいました。



六
月

沖縄の文化や食生活などを調べる為、来沖されているシンガポールの大学院生との交流会が行われ、学生の皆様はエイサーの衣装に着替え入居者、利用者と一緒に踊り最高に盛り上がりました。

学生さんからありがとうと言われた利用者が「サンキュー」と答える場面もあり、笑顔が絶えない交流会でした。



7月21日（日）に入居者皆様とお弁当を持って南城市の知念岬までドライブに出かけました。

車中では景色を眺めたり、唄を歌ったりと思い思いに過ごされ、広場では皆さん輪になり一緒にお弁当を美味しく頂きました。

食後は岬に移動し、最後に青く澄み切った海を背景に記念撮影行いました。皆様、きれいな海に感動されていました。



8月より入居者様へのお楽しみの一つや生きがい作りの一環として、デイルームにてDVD鑑賞会を実施しております。週3日の火・木・土で、15時より一時間、内容は沖縄民謡や郷土劇、昭和歌謡曲、綾小路きみまろ等のお笑いまで様々な内容を取りそろえております。

一番人気は、『うちな一芝居』！。皆さん昔を思い出す様で自然と昔話に花が咲きコミュニケーションの輪も広がります。私たち職員も入居者様より昔のお話を聞くことで、知恵や考え方などとても勉強になります。

自由な生活ができる一方で、中には居室にずっと閉じこもり人とあまり交流が少ない方もいらっしゃる為、DVD鑑賞会で同じ場所に集まる事を一つのきっかけとして交流の輪が広がり、ここで生活する上での楽しみの一つとなれば嬉しく思います。



夏の行事としてすっかり定着しました『医療法人寿仁会第三回ユートピアまつり』が9月14日（土）当施設1階駐車場を主会場に行われました。

本年は、沖縄セントラル病院40周年、並びにユートピア沖縄設立3周年記念の一環として催しましたところ、ご多忙中にもかかわらず多くの方々にご来場いただきました。

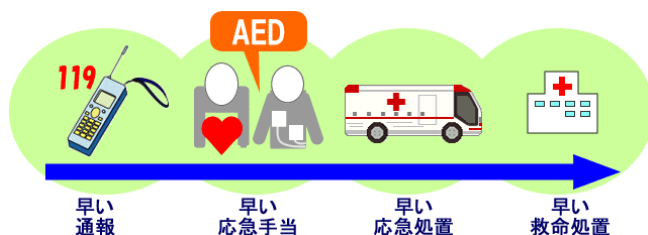
本まつりには、笑いの女王仲田幸子率いるでいご座の皆さん、栄町のスーパースターおばあラッパーズの面々、更に沖縄看護大学生の皆さん、他多くの方々にご出演いただき大いに会場を盛り上げていただきました。



いざというとき、AEDが使用できるようにと11月30日（土）那覇市消防本部真和志出張所隊員をお迎えし、「心肺蘇生法とAEDの使用方法について」講習が実施されました。

DVD上映、隊員による模擬実技、心肺蘇生法とAEDの使用説明がなされたのち、3班に分かれ、AEDを使用するまでの一連の動作について隊員から直接指導を受けました。

講習会終了後には、参加者全員に「救急入門コース参加証」がされましたが、参加した皆さんは幾分緊張した面持ちで参加証に見入っていた様子でした。



今年度は、ユートピア沖縄の入居者が増えた事で介護保険の分野においてサポートする私達もさまざまなニーズの多様化に対応して参りました。

例えば、「住所は〇〇県だが・・・」「転んでしまって・・・車椅子を借りたい」「デイサービスは大きな所がいい」等々ご希望に合わせたサービス調整を行い、その人らしい日常生活の支援を目標としています。

次年度 1 月よりケアマネが一人増え 5 名体制になる事で、新たな再スタートを切り、より一層きめ細やかなサービスの提案をしていきたいと存じます。

これからも居宅コメスタを御愛顧賜りますよう宜しくお願いします。



居宅介護支援センターコメスタ



本年度は、お蔭さまで念願の目標であった入居者数 1 0 0 戸を達成することができ、1 2 月では 1 1 7 名の入居者様が当施設にて生活されています。

私達相談員は、今後ますます多様化する様々なニーズに対してきめ細かに対応し、より一層入居者様並びにご家族様から信頼を頂ける相談窓口として機能していきたいと存じます。

新年度も、ユートピア沖縄をご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

相談員



2013 ユートピア沖縄一年を振り返って

今年もあと残りわずかになりました。皆様はどのような1年を過ごされましたか？

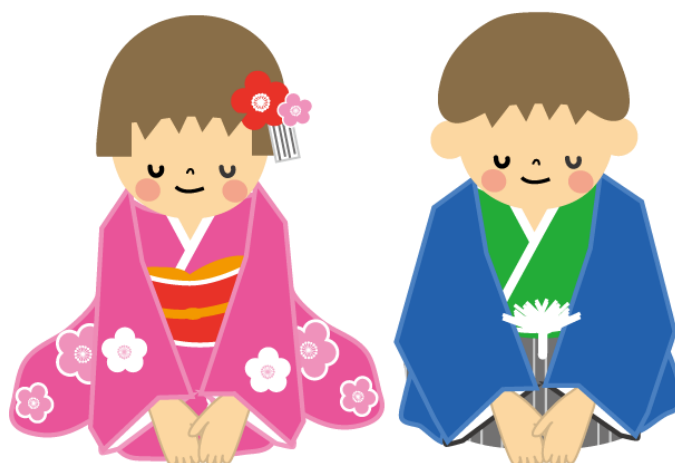
12月1日に、セントラル病院より異動になり何かとバタバタとして、まだご挨拶できていない方々もいらっしゃるかと思いますので、自己紹介させていただきます。看護師長の石塚美和と申します。入居様の健康相談等を担当させていただきます。

趣味のダイビングで沖縄の海に魅せられ、来年で沖縄に来て10年目を迎えようとしています。来沖時よりセントラル病院で勤務しておりました。福祉の現場で勤務するのは初めてですが、職員の方々に色々教わりながら頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

ここ数日、寒い日が続いております。体調面で気になる事があれば、ご遠慮なくフロアースタッフにお声掛け下さい。それでは、良い年をお過ごし下さい。



ユートピア沖縄看護師長
石塚美和



旧年中は当施設をご愛顧賜りありがとうございました。
本年も入居者様の安心安全の為により一層邁進致します。
何卒宜しくお願い申し上げます。



バス——
 停留所：県立看護大学前（徒歩約1分）
 車——
 那覇インターより約15分
 那覇空港より約20分

立地 徒歩5分圏内——
 那覇東郵便局
 那覇市民会館
 県立図書館
 沖縄赤十字病院
 那覇警察署
 与儀公園



医療法人 寿仁会 高齢者専用賃貸住宅 ユートピア沖縄

〒902-0076 沖縄県那覇市寄宮 2丁目 1-18

☎ 098-854-5551

FAX 098-854-5519 (医療法人 寿仁会)

ホームページ <http://www.jyujinkai.jp/utopia/>

メールアドレス o-centh1@nirai.ne.jp

医療法人 寿仁会 沖縄セントラル病院

〒902-0076 那覇市与儀1-26-6

☎ 098-854-5511

FAX 098-854-5519

- | | |
|-------------------|------------|
| ○ ガンマーナイフセンター | ☎ 854-5516 |
| ○ 高気圧治療センター | ☎ 854-5511 |
| ○ メディカルフィットネスセンター | ☎ 854-5541 |
| ○ 健康管理センター | ☎ 854-5511 |